

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

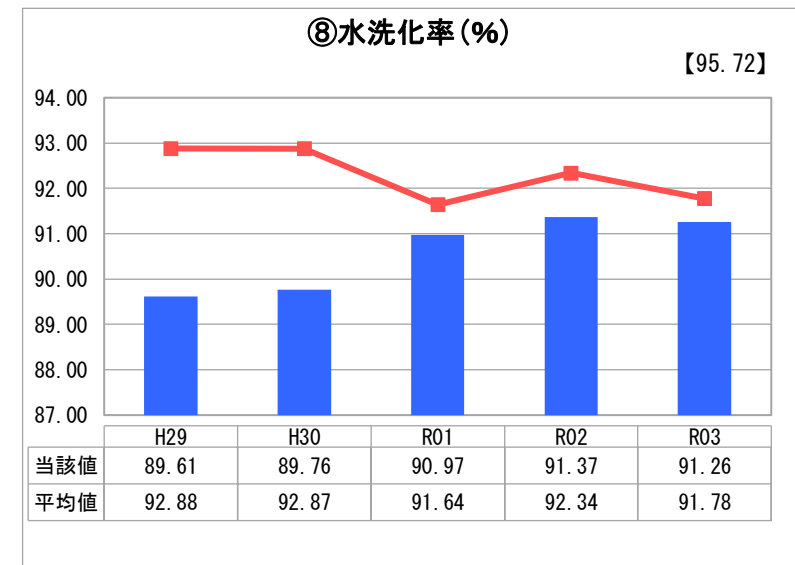
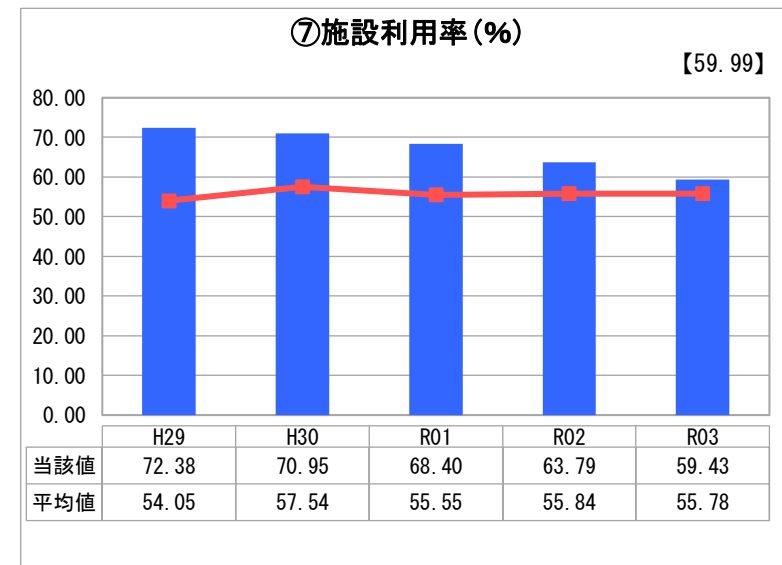
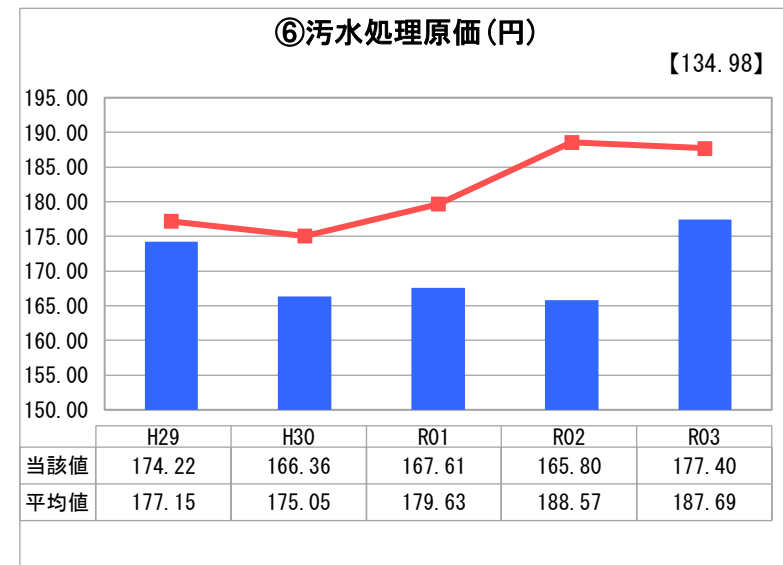
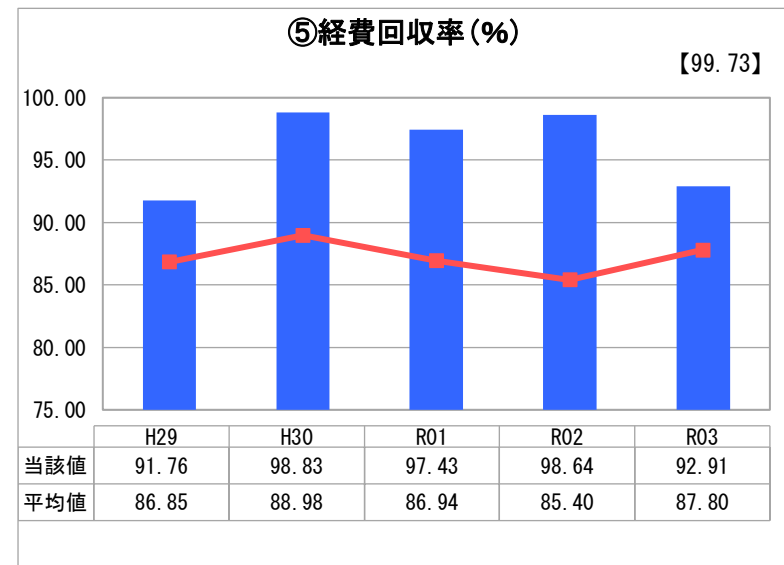
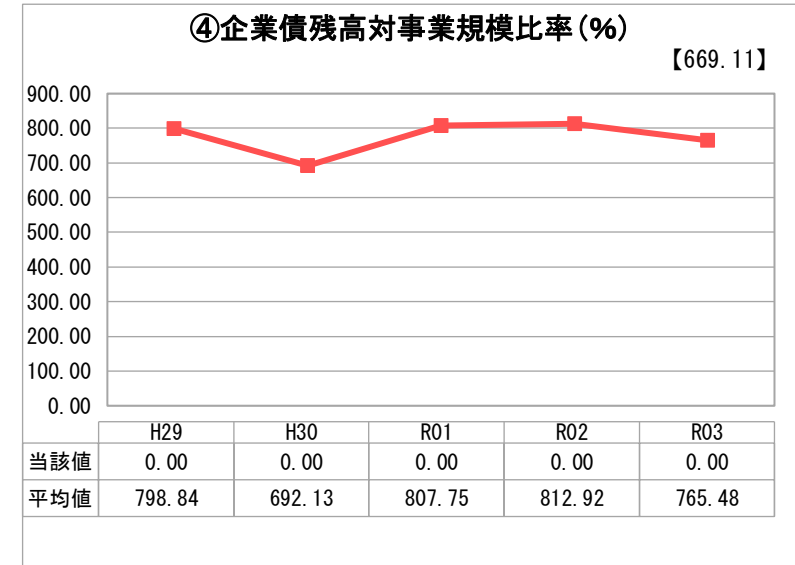
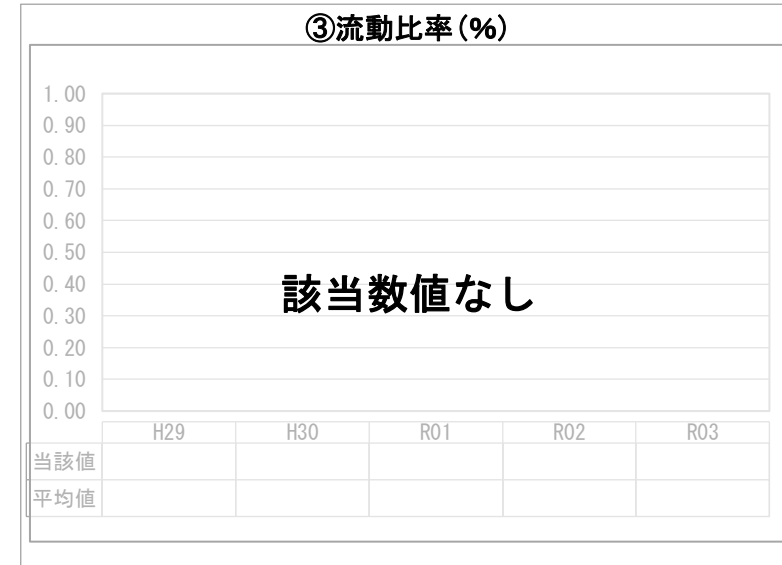
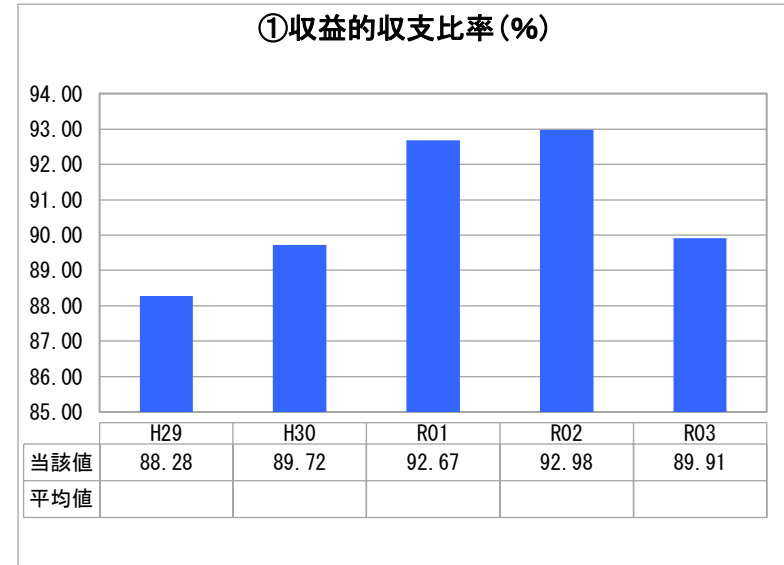
福井県 勝山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	86.17	76.50	2,783

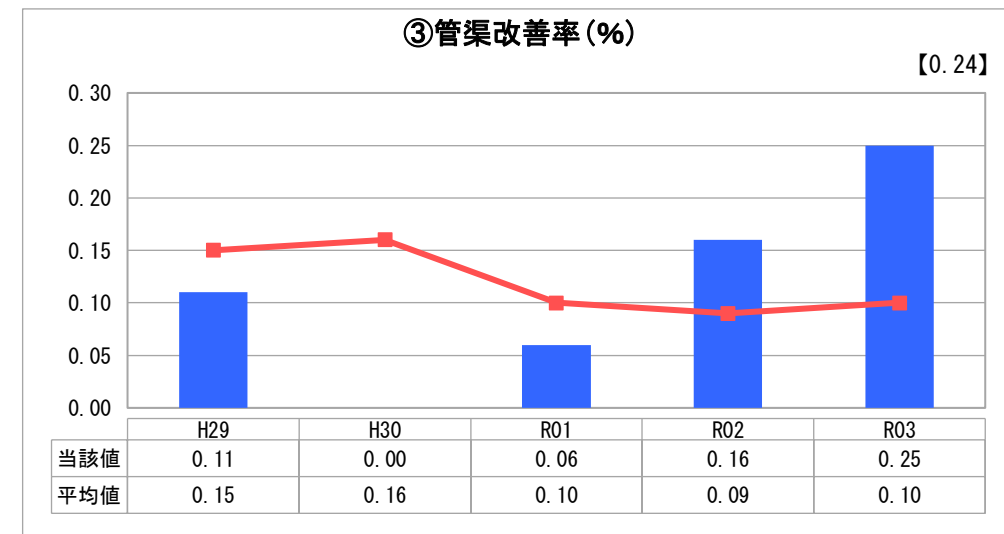
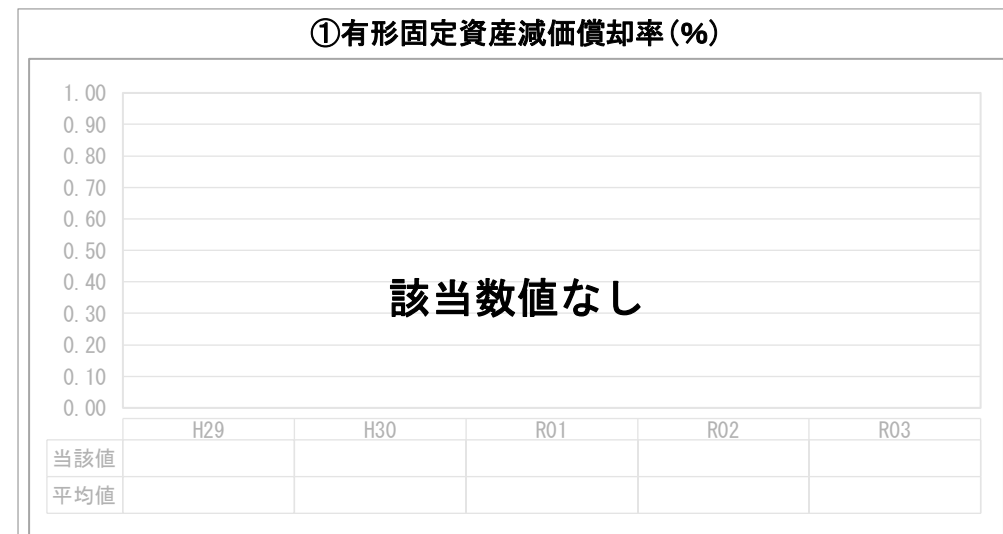
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
22,144	253.88	87.22
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
18,973	8.20	2,313.78

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①「収益的収支比率」は、営業費用は減少したものの地方債償還金は増加し、さらに、他会計繰入金が増加しているため、前年度よりも低くなっている。今後は、使用料収入の減少や維持管理費等の増加により、ますます厳しい経営状況が見込まれるため、使用料改定の検討を含めて経営安定化を図り、収益的収支比率100%以上を目指していく。

④「企業債残高対事業規模比率」は、使用料収入に対する地方債残高の割合であるが、当市は、企業債の償還は一般会計繰入金からの負担としており、0%となっている。

⑤「経費回収率」は、使用料、汚水処理費ともに前年度から増加しているが、汚水処理費の増加率のほうが高かったことから、前年度と比較して減となっている。

⑥「汚水処理原価」は、有収水量、汚水処理費ともに前年度から増加しているが、汚水処理費の増加率の方が高かったことから、前年度と比較して増となっている。

⑦当市は、季節による使用量の増減が大きいことから、施設の処理能力が高くなっており、他団体と比べて利用率が高い。今後は人口減少に伴う有収水量の減少が見込まれることから、施設のダウンサイジングなど有効な対策を考えていく必要がある。

⑧「水洗化率」は、人口減少に伴い、水洗化人口及び処理区域内人口ともに減少しており、水洗化率に大きな変化はない。使用料収入を確保するためにも、水洗化率100%を目指して下水道接続促進を続けていく。

### 2. 老朽化の状況について

③「管渠改善率」は、当市の下水道供用開始が昭和60年のため、管渠耐用年数の50年を超える老朽管はないものの、今後の更新需要の増大に備えて、適正な管理や早期の修繕により、可能な限り長寿命化を図り、設備投資の増加を抑制していく必要がある。

## 全体総括

勝山市の下水道事業は、人口減少に伴い、下水道使用料収入が長期的に減少していくことが予想されるが、維持管理費は増加していくため、厳しい経営環境に置かれることが予想される。また、農業集落排水事業との接続の検討などの課題もある。

適切な維持管理に努め、必要な施設整備・更新を着実に推進し、将来の下水道サービスを安定的に提供していくための費用を見込みながら、引き続き財政基盤の強化に努め、中長期的な視点に立つて財政運営を行っていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。